

# 一般質問

12月定例会



内藤 眞一 議員

## Q人口増につなげる福祉行政は

9月定例会で高齢層による人口増の質問をした。建物に金をかけても後に繋がらず、町民の理解は得られない。そこで、庭付きの空き家を活用し、のんびり過ごせる居場所づくりを集落と協力し作り上げる町づくりはどうか。

「日本一大しめ縄の町」が「日本一福祉・包括ケアの町」となるよう「飯南町福祉立町宣言」と銘打ち「都会から田舎へ」と高齢者を呼び込む。

## A検討遅れている

町長 山崎 英樹

都市部からの高齢者受け入れを事業として、健康状態に応じたケア環境の整備と、定着を実現する仕組みづくりを、策定中の総合戦略に盛り込む作業を進めている。しかし、高齢者と若者のバランスの取れた人口構成が望まれており、検討は遅れている。総合戦略推進交付金も視野に入れ、できるだけ国・県の補助金を活用したい。



庭のある空き家

## Qゲノミック評価積極活用を

県は、先端技術を活用した「しまね和牛」緊急改良事業と称し、9月補正予算で778万円を計上した。ゲノミック評価(※1)を導入し、県内の若い雌牛400頭を評価し、超高性能雌牛を選抜する。

本町には13頭が配分された。従前の技術だと約30ヶ月を要したものが、ゲノミック評価だと3ヶ月で選別できる。町内には約200頭の該当牛があり、全頭評価が飼育農家の希望だ。1頭あたり2万2000円程度であり、早急に予算措置をすべきだ。

受精卵移植も進め、飼育農家全員が協力し、町産子牛のレベルを向上させ、価格の安定に繋げる必要がある。和牛改良組合など関係者とよく協議し、早急な取り組みを求める。

(※1)ゲノミック評価とは、牛の毛根からDNAを採取し、肉質や肉量に関する能力を評価する手法。

## A機運高まれば支援

町長 山崎 英樹

農家の所得向上には有効な手段だと認識している。本町では従来から、優良牛保留を行っており、先進的な技術で成果が上がることを期待する。

これを進めるには、受精卵移植による標準化などをオール飯南町で進めるべきで、それは飯南町和牛改良組合が、取り組みへの機運を高めることが重要だ。

機運が高まれば、町はスピード感を持って必要な支援をする。



飯南町の和牛共進会

# 一般質問

12月定例会



高橋 英次 議員

## Q医療機関への交通手段見直しを

赤名の和田医院閉院後は、飯南病院もしくは来島診療所での受診となり、公共交通機関等を利用し通院することになるが、住民の皆さんの一番の不安は、その不便さである。

和田医院の待合室で話を聞いたが、患者からは「直通便もないし、生活路線バスが運行されていなく」「アムンドバスを利用しても乗り継ぎが必要だ」という意見がある。

医療機関への交通手段の見直しを求める。



和田医院

## A地域公共交通計画の見直しで

町長 山崎 英樹

公共交通は、住民生活を支える重要な生活基盤である。デマンドバスと生活路線バス乗り換えの不便さは、課題の一つとして認識している。

来年度からは、自動車免許を持たない方へ、タクシー助成制度導入を検討している。

医療機関への交通手段は、今後の地域公共交通計画見直しの中で、より良い交通体制を目指す。



運行中の町営バス

## Q出張診療所の開設を

和田医院で聞き取る中で、出張診療所の開設を求める声がたくさんあった。医療機関が無くなることは、小さな拠点の形成を壊すことになる危険性がある。

出張診療所の開設要望も併せ、これからの赤名地区の医療体制への不安解消はどう行うのか。

## A出張診療所は開設しない

町長 山崎 英樹

新たな医療機関の開設を望まれるのは、当然のことと受け止めている。

飯南病院では、総合医による医療体制の構築、地域包括医療ケアの推進に取り組み、現在町内外から評価されている。

今後、働き方改革への対応、人口減少や患者数の減少が想定され、病院事業の運営が課題だ。引き続き救急医療・入院機能の維持、充実を最優先とし、在宅医療の充実、オンライン診療などに取り組み、町全体の医療の確保に努める。

出張診療所は、現在開設している2ヶ所も検討が必要だ。赤名には出張診療所を開設せず、飯南病院・来島診療所で対応する。